思い込めた書評58編

障害者作業所運営 阿蘇市の宮本さん出版

障害者の自立を支える阿蘇市蔵原の作業所「夢屋」を運営する宮本誠一さん(49)＝同市黒川＝が昨年4月まで10年間にわたって熊日に掲載した書評をまとめた「往生岳の麓にて」(A5判、87ページ)を20日、自費出版する。障害者と向き合いながら書いた文章から、その時代の風景も見えてくる。

宮本さんは県内の小学校教諭を経て1995年に「夢屋」を開所。障害のある通所者7人とパンを作る傍ら文筆活動を続け、2009年に「游人たちの歌」で部落解放文学賞に4回目の入選を果たした。

「往生岳の麓にて」は、「神の子どもたちはみな踊る」(村上春樹著)を皮切りに、小説やノンフィクション、児童文学、評論などの書評58編を紹介。「きょうの発言」(99年4～6月)など熊日に掲載されたコラムも収めた。

「地方紙を通じ中央に負けないレベルの書評を書きたいとの一心だった。毎回800字で表現するのが苦しい時もあったが、作業所から阿蘇五岳に連なる往生岳を望むように、書評で1冊の本の風景を描けたのは貴重な経験だった」と宮本さん。

書評集は500部印刷。800円(税込み)。夢屋☎0967(34)0223。(今村浩)

「往生岳の麓にて」を自費出版する宮本誠一さん＝阿蘇市